森の生活

2020年度
年次報告書

森の生活のミッション

森林を活かし、
人々の心豊かなくらしと
持続可能な地域づくりに貢献する。

私たちはみんな「森の生活」を送っています。

森に囲まれた暮らしだけが森の生活ではありません。
日々の暮らしの中にある森から生まれたものについて想いを馳せてみると、私たちの暮らしが思いのほか森とつながっていることに気づきます。しかし、直接森にかかわったり、森のことを考えたりする機会は少ないのではないでしょうか。

日本は森林率67％と世界でも有数の森の国です。しかし、木材の多くを海外からの輸入に頼る一方、国内では森林が十分に活かされていない状況にあります。驚くことに、森が身近にある農山村においてさえ、多くの人々にとって、森は近いようで遠い存在です。かつて日本で行われていた暮らしの中に森を活かす文化を、今、新しい形で蘇らせられないでしょうか。

身近な森から生まれた製品を購入したり、休日を森で過ごしたり、森に関わる仕事に携わったり。そんな機会を創造していくことで、農山村、都市の隔てなく広がる人の数だけある「森の生活」が、森を育て、そして一人一人の暮らしや人生をもっと心豊かにするはずです。

ＮＰＯ法人森の生活は、森のある暮らしを広める活動を通じて、人々と自然が調和した豊かな社会づくりに取り組みます。

目　次

Ｐ１　森の生活のミッション
Ｐ２　2020年度活動ハイライト
Ｐ３　活動報告
　Ｐ３　森の体験事業
　Ｐ９　森のまちづくり事業
　Ｐ12　森のめぐみを届ける事業
P13　森の生活の活動のSDGsへの寄与
P16　会計報告　エネルギー消費量
P17　団体概要　森の生活年表
P18　理事・スタッフ紹介

2020年度 活動ハイライト

子どもから大人まで、森で遊び、学ぶ機会を提供します。

・森林環境教育を、延べ1,047人の子どもたちに35プログラムを提供しました。
・森林体験・オーダーメイドプログラムを11件提供し、延べ460人の方々にご参加いただきました。
・指定管理者として管理運営を行う「森のなかヨックル」を、712人の 方々にご利用いただきました。

住む人、訪れる人、どちらにとっても魅力ある、森を活かした地域づくりに取り組みます。

・指定管理者として管理運営を行う森林「美桑が丘」を延べ1,555人の方々にご利用いただきました。
・ローカルベンチャーの推進に取り組み、1人の移住・起業者を生み出しました。

下川の森から生まれた体験・製品・物語を届けます。

・広葉樹丸太24.7m^{3}を購入し、製材・乾燥したほか、木工用材や加工製品25,940千円分の販売を行いました。
・自社ホームページおよびふるさと納税に、しもかわ広葉樹のオーダーメイドテーブルを掲載しました。

活動報告

森林環境教育事業

延べ 1,047 人の子どもたちに 35 プログラムを提供しました。

森の生活では、下川町からの委託を受け、認定こども園「こどものもり」から高校まで成長段階に合わせて目標を設定し、15年一貫の森林環境教育に取り組んでいます。認定こども園「こどものもり」ではほぼ月に1回、小学生から高校生までは年に1回、プログラムを実施しています。

森林環境教育の取り組みの経緯

2006年度、NPO法人森の生活が下川町幼児センター（現・認定こども園「こどものもり」）の子どもたちを対象に森のあそびを実施したことからスタートしました。2007年には、下川町役場が町内の小・中・高校に対し森林体験プログラムを実施するようになり、2009年からは成長過程に合わせた体系的なプログラムを実施するために、幼児から高校まで一貫した森林環境教育として取り組むようになりました。2011年には北欧発祥の森林環境教育プログラム「LEAF」を導入し、プログラムを展開し始めました。2019年度、下川町では「2030年のありたい姿」の7番目の目標「子どもたちの笑顔と未来世代の幸せを育むまち」を具体化するための「地域共育ビジョン」を作成しました。森林環境教育も、地域共育ビジョンと、2020年度から順次始まった新学習指導要領の改訂に対応すべく、内容の見直しを進めました。

下川町の森林環境教育の目標

学校ごとの目標を明文化

2020年度、発達段階に応じた森林環境教育の目標を策定しました。
学校ごとの目標を元に学校の先生とプログラム内容について話し合い、実施しています。

学校ごとの目標

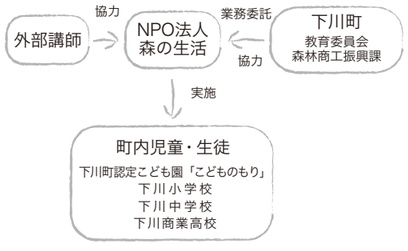
認定こども園こどものもり … 自然に触れ、感性を養うとともに、たくましい体をつくる
町立下川小学校 …… 森が様々な価値（環境、社会、経済）を持っていることを理解する
町立下川中学校 …… 下川の林業・林産業の歴史と現在の取り組みを知ることを通じて、町の将来について考える
北海道立下川商業高校 … 持続可能な地域経済のあり方について、地域資源の活用や、SDGs・ESGの観点を踏まえつつ、探求し、提案することができる

プログラムの評価・改善

プログラム提供後に先生方へのアンケートを実施し、定量的な評価を行うとともに、年２回の関係者会議（教育機関、教育委員会、役場）を通してプログラムの改善に向けた情報共有、意見交換を行っています。

設問 ＊５段階評価で、１が低い評価、５が高い評価。	平均値	
	2019 (N=22)	2020 (N=19)
A. 活動の目標が事前に共有できていましたか。	4.3	4.5
B. 活動の目標が達成できましたか。	4.5	4.3
C. 子どもたちにとって興味を持って取り組める内容でしたか。	4.5	4.6
D. 子どもたち自身の気づきや学びを尊重した内容でしたか。	4.0	4.3
E. 森の生活との連携の意義を感じる内容でしたか。	4.5	4.6
F. 準備や実施は負担に感じませんでしたか。（＊負担に感じなかったが 5）	4.5	4.2
G. 安全に活動できましたか。	4.9	4.5
H. 学校で学習している関連単元の理解を深めることに役立ちましたか。	4.0	4.3

実施体制



2020年度実施プログラム

下川町認定こども園「こどものもり」森のあそび

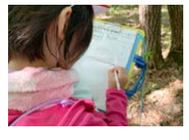
＜目標＞ 自然に触れ、感性を養うとともに、たくましい体をつくる

4月　白樺樹液の採取
5月　春のさんぽ
6月　初夏のさんぽ
7月　夏のさんぽ
10月　焼き芋
11月　冬のさんぽ
12月　森のリースづくり
２月　雪山でしりすべり、修了式（スライドショー）

下川小学校　森林学習

＜目標＞ 森が様々な価値（環境、社会、経済）を持っていることを理解する

1年生　お気に入りの木を見つけよう
身近な自然を体感することで、木の特徴や種類に興味・関心を持ち、地域の自然に対する愛着を育む。



２年生　動物のお弁当箱を作ろう
お弁当づくりを通して森に様々なものがあることを知り、森林への興味・関心を高める。

３年生　森林の生き物を探そう
虫や動物、きのこ、樹木などの生態を知り、「いきものマップ」を作ることで森林の循環のしくみについて理解を深める。

４年生　森・川・海のつながり
下川の森と天塩川流域の繋がりについて学び、森を守ることが川や海を守ることにつながるということを理解する。

５年生　木材の活用法について学ぼう
木の伐採現場や林産業の工場・施設の見学を通して、森林の育成や活用に携わる人々の取組について興味・関心を高め、人間と自然の相互作用について理解する。

６年生　気候変動と森林
気候変動について理解を深め、下川の町では気候変動対策をどのようにしているのかを知り、自分たちができる気候変動対策を考える。

下川中学校

＜目標＞ 下川の林業・林産業の歴史と現在の取り組みを知ることを通じて、町の将来について考える

1年生　下川町の林産業の歴史と現状について知ろう
札天山収蔵館や森林組合北町工場の見学を通して下川町の林産業の歴史と現状を学び、調べたことをまとめる。

2年生　下川町の木材の活用方法について知ろう
下川町の木工製品や樹種の特性を知り、ハンガー作りを通して下川町に提案する木材加工の案を考える。

3年生　下川町のまちづくり
エネルギー関連施設の見学を通して、下川町が目指すまちづくりについて学び、森林の活用を理解し、持続可能な社会について考える。

下川商業高校

＜目標＞ 持続可能な地域経済のあり方について、地域資源の活用や、
SDGs・ESGの観点を踏まえつつ、探求し、提案することができる

1年生　森林の経済的価値と下川町の森の仕事

森林の経済的価値について理解を深め、森林や林業に関わる仕事について考える。

2年生　下川の資源を生かし、地域経済やSDGsに貢献するビジネスを考えよう。

自分の好きなものや興味のあることと下川の地域や資源を掛け合わせて、地域経済やSDGsに貢献するビジネスアイディアを考える。

プログラム例：小学４年生「森・川・海のつながり」

学習指導要領の改定に伴い、総合的な学習の時間では、地域や各教科の学びのつながりを意識した授業づくりや、子どもたちが興味を持ったテーマを深めていく探究的な学習にこれまで以上に取り組んでいます。小学校 4 年生では、森林環境教育（7 時間）を、名寄川やサンル川をテーマにした総合学習の単元「下川の自然調査隊」（全 36 時間）の一部として関連づけて取り組むことで、他教科との関連を持たせながら効果的に取り組むことができました。

8/20　事前学習　＜教室＞

下川町の森とペンケ川・名寄川・天塩川と海のつながりを学ぶ。

8/24 現地学習　＜ペンケ川＞

実際に川に行き、生き物探しをする。
ヤマメや水生昆虫を見つけて、捕まえる。

8/24　事後学習　＜教室＞

現地学習をふりかえり、気づいたこと・疑問に思ったことなどを模造紙に書き出す。ここで出たことを元に、担任の先生と未来の学びコーディネーターでその後の探求学習につなげました。

2020年度の森林環境教育は探求学習のきっかけや一部として実施しました。子ども達にはプログラムを通して、身近な自然を感じたり下川の町としての取組を学んだりして「下川の豊かさ」を実感してほしいと思います。
また、学校ごとの目標を策定したので、この目標を元に15年一貫の森林環境教育全体の流れを考えていきます。SDGsや関連する教科も取り入れて、知識や経験を増やしていけるようなプログラムを先生や未来の学びコーディネーターと相談しながら作り、提供していきます。

担当スタッフより

長尾 綾

活動報告

森林体験事業

森林体験・オーダーメイドプログラム

延べ 460 人の方々に 11 件のプログラムを提供しました。

下川を訪れる方々に気軽に森や自然と接する機会を提供し、森のある暮らしを体験するお手伝いをしています。

季節の森歩き

季節ごとに魅力たっぷりの下川の森をゆったり散策します。

森の精油づくり

森でトドマツの枝葉を採り、エッセンシャルオイルを作ります。

ムーンウォーク

満月の夜の森をスノーシューで歩きます。

名寄市立大学社会保育学科 自然保育実践演習

保育士の卵である名寄市立大学社会保育学科の学生たちが自然保育の実践フィールドとして美桑が丘を利用し、火起こしやレクリエーション、キャンプなどを行いました。

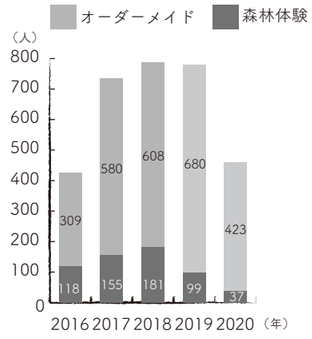
北海学園大学下川町研修

下川町での地域づくりと森林との関係について理解を深め、 SDGs、持続可能な循環型森林経営、気候変動に対する下川町の具体的なアクションを学ぶプログラムを実施しました。

姫路女学院修学旅行

下川町のSDGsのまちづくりについて、「森林・林業・エネルギー自給」および「女性の活躍」の観点から、理解を深め、感じるプログラムを実施しました。

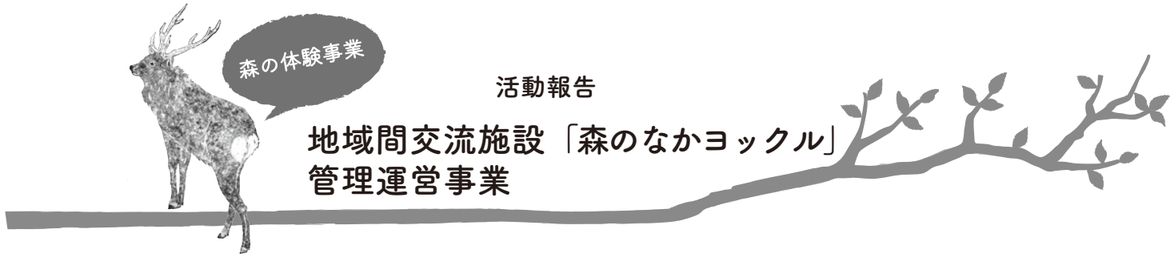
参加者数の推移



コロナの影響で、例年実施していた子ども交流や企業研修等のキャンセルが相次ぎました。一方、下川町のSDGsを探求テーマに設定した修学旅行の問い合わせは増加しています。地域に来てもらう機会づくりに備える一方、来なくても学べるオンラインの対応力も身につけることで、オンラインとリアルの双方の強みを生かせるプログラムが提供できるよう進化していきたいと思います。

担当スタッフより

麻生　翼



活動報告

地域間交流施設「森のなかヨックル」管理運営事業

712 人の方々にご利用いただきました。

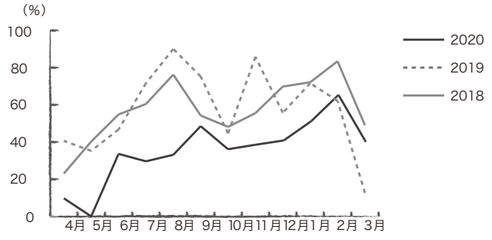
指定管理者として、地域間交流施設「森のなかヨックル」の管理運営を行っています。

下川町地域間交流施設「森のなかヨックル」は、恵まれた自然環境を背景に、各種体験活動の場を提供し、都市住民と町民との交流を促進、地域の活性化を図ることを目的として、2006年に下川町によって設置されました。2009年4月1日からは、NPO法人森の生活が指定管理者としてヨックルの管理運営を行っており、森の生活が従来から行っていた都市向けの森林体験交流事業をより発展させ、宿泊とあわせて多様なプログラムを提供し、森林のまち下川町の交流拠点となることを目指しています。

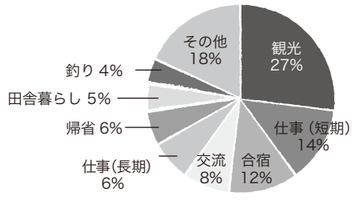
自炊可能なコテージ型の交流施設で、A棟１棟（10名定員）、B棟10棟（４名定員）の合計11棟からなります。市街地にも近く、自炊設備も整っているので、下川に暮らしているような気分で滞在できる施設となるよう管理運営を行っています。

2020年度は、新型コロナウイルスの影響を受け、5月は下川町の要請により受け入れ停止、夏場の長期宿泊もキャンセルが相次ぎ厳しい状況となりました。反面、冬場はスキー合宿での利用が例年よりも増加し、また新規の方からの長期宿泊の問い合わせが増えたりと、社会状況が変化する中で、中長期での滞在のニーズがあることもわかりました。

2018～2020 年度 稼働率



滞在目的



ヨックルガーデン整備

ヨックルガーデンはヨックルに併設された畑で、お客様にご利用いただいています。どんなお客様にも安心してご利用いただけるよう、農薬や化学肥料を使わずに作物を育て、日々管理しています。ガーデンを楽しみにされているお客様も多く、滞在中は畑作業や収穫を楽しんでいただいています。お客様と地域の方との交流の場にもなっており、ヨックル滞在の魅力にもなっています。

2020年度は、老朽化したキーホールガーデンの柵やガーデン内の看板を作り直しました。
また、新しく簡易アースドームを設置しました。今後はかぼちゃや豆の蔓で覆って、ヨックルガーデンの新しい休憩場所となるよう試みる予定です。アースドームの設置は、滞在中のお客様も手伝ってくださいました。

木質バイオマス熱供給システムの設置

下川町では、公共施設を中心に木質バイオマスエネルギーによる熱供給システムを導入しており、2020 年度はヨックルにも設備が導入されました。
隣の中学校の木質バイオマスボイラーから地下を通って温水が供給され、ヨックルの全棟に設置されたパネルヒーターにより室内が暖められます。中学校の暖房の需要は昼間が多く、ヨックルの暖房は夜に多く使われるため、熱を効率よく利用することが出来るようになりました。

新型コロナウイルス感染症対策

新型コロナウイルス感染防止対策として、清掃行程を見直し、感染症対策用のマニュアルを新たに作成しました。お客様とスタッフの安全を第一に考え、人員配置や業務内容の見直しを随時行いながら、変化する状況に対応し対策を実施しました。

2020年度は、新型コロナウイルスの流行により、宿泊施設は大きな影響を受け、ヨックルの利用者数も例年の半分まで落ち込みました。一方で、中長期の予約や問い合わせが増え、次年度の長期滞在予約は新規のお客様の割合が増えています。
ヨックルの宿泊形態が独立したコテージタイプであること、長期滞在に適していること、自然栽培のガーデンがあることなどを活かして、今後増えてくると予想される長期滞在や田舎暮らし体験、移住希望者の受け入れに対応していきたいと思います。

担当スタッフより

成田 菜穂子

森のまちづくり事業

活動報告

美桑が丘管理運営事業

延べ 1,555 人の方々にご利用いただきました。

指定管理者として、美桑が丘の管理運営を行っています。

美桑が丘は、「各種体験学習、ふれあいや環境関連資料等の展示・催しを通じ、森林文化の創造を図る」という目的のもと、下川町によって設置されました。2012年度からは森の生活が指定管理者となり、下川町中心部近くにある放置されていた雑木林を「美桑が丘」として人々が集うことのできるフィールドに整備するところから活動を始めました。
美桑が丘の森は野外活動やイベントのフィールドとして、管理棟は屋内活動やミーティングのスペースとして利用することができます。

美桑が丘における市民活動の経緯

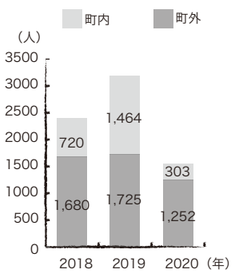
2010年度、下川町が美桑が丘の用地を取得。2012年度、森の生活が指定管理者に決定。2013年度には、森の生活主催で毎月一度、誰もが美桑が丘で自由に過ごすことのできるイベント「みくわの日」をスタート。地域の人々と協働で美桑が丘の場づくりについて考える話し合いも実施しました。
その後、徐々に利用者が増え、美桑が丘でより活動がしやすくなるしくみ「みくわクラブ」が生まれました。また、地域の人々との話し合いは、試行錯誤を経て、年２回の「みくわミーティング」となり、初めは森の生活が主催していた「みくわの日」も市民グループと一緒に運営するようになりました。

2020年度は、助成金※ を活用しながら、屋外活動の拠点となる「みんなの基地づくり」や森のある暮らしを体験するワークショップ、活動のための勉強会などを行いました。

※ 独立行政法人環境再生保全機構 地球環境基金助成金

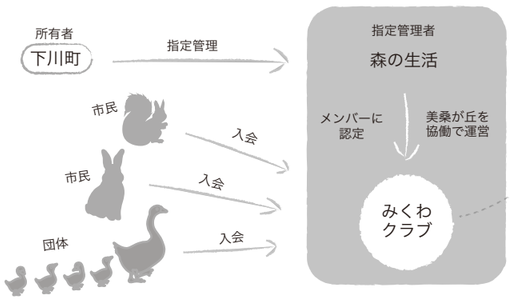
みくわミーティング

利用者数の推移



みくわクラブ

継続して美桑が丘の場づくりに関わりたい利用者が、より活動しやすくなるしくみです。
「森の生活の構成員となり、責任を持って施設利用を行うこと」を条件に指定管理者の構成メンバーとして主体的に活動をしやすくなる様々な特典を受けることができます。



入会の条件

- 美桑が丘の設置目的を理解し、継続して美桑が丘を利用すること。
- 入会することで森の生活の構成員(ボランティアスタッフ)となり、責任を持って施設利用を行うこと。
- 年会費として【個人500円】、【団体1500円】を支払うこと。
- メーリングリストに加入すること。
- 営利目的の場合は、その他必要な等費を支払うこと。

特典の例

1. 安全への配慮のもと、焚き火場を利用できる
2. 活動中にケガや事故が発生した際、内容によって保険が適用される
3. 活動で必要な場合は森の生活の道具の一部を利用できる　など

2020 年度の主な活動

※（ ）内は活動の運営団体

活動拠点「みんなの基地」づくり（森の生活）

講師を招いて、利用者の方々と一緒に屋外活動の拠点となるパイプハウスを「みんなの基地」となるように DIY で作っていくワークショップを開催しました。

ワークショップ・勉強会の開催（森の生活）

森の恵みを活かしたワークショップや、野外活動のリスクマネジメント講習などを開催しました。

みくわの日（森の生活＆みくわの日グループ）

月に1回、誰でも美桑が丘で自由に過ごせる場を地域の方々とともにつくっています。

森のようちえん活動（森のようちえん カカラ）

町民有志の森のようちえん活動のフィールドとして毎週定期的に利用。多くの利用がありました。

小さな里山づくり・道産子馬の放牧（22 世紀コミュニティ研究会）

美桑が丘の一部で、里山暮らしを実践し、メンバーが飼育している道産子馬ハナちゃんの放牧もしました。

みくわヶ丘で畑づくり（畑グループ）

2020 年度から新しく活動を始めたグループ。みくわの日の参加者や森のようちえんの子どもたちに収穫体験の場を提供しました。

2020年度は、地球環境基金助成金の最終年度でした。屋外活動の拠点となる「みんなの基地」づくりや野外活動のリスクマネジメント講習などを開催し、今後の活動へ繋がる場作りを進めることができました。3年間の助成期間の中で、みくわが丘で活動しやすくするためのハード面を整え、森と親しむためのワークショップ・勉強会を数多く実施し、利用する人が主体となって活動できる場となるように取り組んできました。今後も、たくさんの人に親しんでもらえるみくわが丘であって欲しいと思います。

担当スタッフより

成田 菜穂子

森のまちづくり事業

活動報告

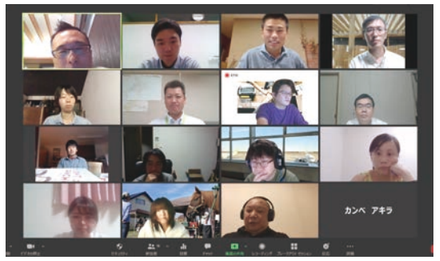
協働推進事業

地方の資源を活用し、新たな価値を生み出す事業を創造する「ローカルベンチャー」の推進に取り組み、しもかわベアーズとして 1 名を採択しました。

下川町産業活性化支援機構、NPO 法人 ETIC. と連携し、下川での起業家誘致や起業支援に取り組んでいます。

しもかわベアーズ

下川で自分の得意なことや好きなことを活かして起業する人を誘致・支援するプログラム「しもかわベアーズ」の 5 期目となる募集を行い、審査会等を経て、1 名を採択しました（下川町産業活性化支援機構と連携して実施）。第 5 期は最終審査会も初のオンライン開催となりました。



2020年9月15日にオンラインで開催した、オンラインサロン「ベアラボ」限定イベントには、サロンメンバー8名が参加。
麻生がファシリテーターを務め、下川町の取り組みと課題について農・林・商それぞれの役場担当者と参加者がディープに交流しました。

しもかわベアーズ第 4 期として採択された 大石 陽介さん

大石 陽介 さん

いきなり「起業」という自信はなく、伴走型の支援やサポート体制がきちんとしているということから、ベアーズへ応募。しもかわをまるごとつなぐおもてなしの宿を開業するための準備が主な活動です。しもかわの日常をお届けする『ぐるっとしもかわ』というガイド事業をはじめ、このまちの魅力をぎゅっと詰め込んだキャビンをセルフビルド。どんなに小さくてもはじめてみることが大切と考え、周りの支えをもらいながら自分の思いがカタチになってきています。

ローカルベンチャーラボ

主に首都圏の方を対象としたローカルでの事業構想を練るプログラム、ローカルベンチャーラボ第 4 期の「土着型 SDGs ビジネス」のテーマラボを担当しました。今期は完全オンライン実施で開催しました。

コロナの影響でオンラインの交流が浸透したことで、都市に人と情報が集まる形から、地方と地方、個人と個人が直接つながりやすくなったことを感じます。深い対話はやはり対面で行いたいものですが、このような情報の流れやつながりの変化は、地方にとっては良い影響も少なくないことを実感しています。コロナによって、足元の資源や価値の大切さを見直すきっかけをもらった気がしています。

担当スタッフより

麻生 翼

森のめぐみを届ける事業

活動報告

森の製品開発事業

広葉樹丸太 24.7m3 を製材・乾燥し、30 件の原板販売を行なったほか、下川の木材加工工場と連携し加工品 25,940 千円分の木製品の製造をコーディネートしました。

有効活用されていない広葉樹を活用するために少量・多品目の木材流通システムを構築したり、町内木材加工工場と連携して下川産材・北海道産材を活用した加工品製造のコーディネートを行ったりしています。

少量・多品目の顔の見える木材流通システム

国産広葉樹材の約 8 割がチップにされており、木工用の材料として使われている広葉樹も、その多くを外国産材に頼っています。
広葉樹はうまく活用すれば針葉樹よりも付加価値がつきやすく、その蓄積量は 1990 年以降回復傾向にあるものの、多くがチップにされています。この背景には、広葉樹は計画的な管理が難しいうえに、出材量が少ないため、原木車による運送コストに見合うだけの量を確保することが難しいという理由があります。

そこで、私たちは、有効活用されていなかった地域の広葉樹を木工用材として活用するために、下図のように、小規模多樹種の木材流通の仕組みを構築しました。現在では、ミズナラ、タモ、イタヤ、センといったポピュラーな樹種だけでなく、シラカバ、ハンといったあまり一般的に流通しない木材まで、取り扱っています。

木材コーディネート事業

町内の下川フォレストファミリー（株）を始め、町内の木材加工事業者と連携して地域材の加工品のコーディネートを行っています。
札幌の児童館等にも導入されている子ども向け木製知育玩具「森のピタゴラス」は、北海道産トドマツの集成材と下川産広葉樹を使った製品で、設計のご相談、木材の提供、製造の面で協力させて頂いています。
下川産広葉樹「しもかわ広葉樹」を使ったオーダーメイドテーブルも、ふるさと納税の返礼品として好評をいただきました。

合同会社森のピタゴラス代表 崎川 哲一さん

「森のピタゴラス」は、どんな子どもも日常的に森や木に触れる機会をつくりたいという想いから製作したおもちゃです。ピンとピースを使ってコースをつくりビー玉を転がす、という単純ながらも奥深い遊びの中で、子どもは音や手触り、重さ等から「木」の魅力を楽しみます。北海道の色々な樹種の木を子どもたちに届けたいという考えから、道産でかつ種々の木材という御願いに小ロットでも対応いただき、いつも感謝しております。

木材を通じてたくさんのつながりが生まれていることに感謝しつつ、地域の木材を地域で加工して届けることを当たり前にしていきたいと思います。

担当スタッフより
麻生 翼

森の生活の活動の SDGs への寄与

SDGs（Sustainable Development Goals［持続可能な開発目標］）は、2015年9月の国連サミットで採択されたもので、国連加盟193か国が2016年～2030年の15年間で達成するために掲げた目標です。下川町ではSDGsを踏まえた「2030年のありたい姿」を策定し、総合計画への反映に取り組むなど、自治体としてもSDGsの達成の寄与に取り組んでいます。

森の生活としては、「森林を活かし、人々の心豊かなくらしと持続可能な地域づくりに貢献する」というミッションのもと、本報告書で報告させていただいた事業の成果をもってSDGsに寄与したいと考えていますが、事業を進める上で社会・環境に対して様々な影響を与えていることを認識し、「社会・環境に対する負荷を減らすこと」「マイノリティの方々への配慮を行うこと」「活動が副次的に良い影響を与える機会を積極的に作り出すこと」も大切にしていきたいと考えています。
このような社会的責任を果たす上で、SDGsにつながる取り組みを下記のとおりピックアップしてお伝えします。

洗剤の環境負荷低減

森の生活の管理運営する施設（美桑が丘管理棟、地域間交流施設「森のなかヨックル」）において、館内に設置する洗剤類については合成洗剤を避け、清掃においても、せっけん洗剤、重曹、クエン酸を使用しています。

→6. 安全な水とトイレを世界中に、12. つくる責任 つかう責任

省エネルギー・再生可能エネルギーへの転換の推進

美桑が丘管理棟での薪ストーブの使用、ヨックルでのレンタサイクルなど、省エネルギーを促すとともに、美桑が丘管理棟に小規模オフグリッドソーラーシステム（400W）を導入し、パソコンの充電を中心に活用を推進しています。また、ヨックルの熱源について、隣接する中学校・幼児センターの木質バイオマスボイラーを利用することで木質化を促せるよう、働きかけを行います。さらに、施設で使用する石油由来のエネルギー使用を削減するために、消費量をモニタリングし、年次報告書にて公表しています。

→7. エネルギーをみんなに そしてクリーンに

バイオトイレの設置

美桑が丘に参加型ワークショップでバイオトイレを設置し、排泄物の堆肥化と畑での利用を通じて循環型の暮らしの実践と学習の場を提供しています。

→6. 安全な水とトイレを世界中に、12. つくる責任 つかう責任

紙資源への配慮

ペーパーレス、裏紙の使用を推進するとともに、コピー用紙、トイレットペーパーは可能な限り FSC® 認証のものや環境に配慮した製品を使用するように努めています。

→12. つくる責任 つかう責任、15. 陸の豊かさも守ろう

職員の労働環境の改善

年に1度、労働環境の改善に向けて話し合う機会をつくっています。また、フレックスタイム制の導入、事務所の営業日を週4日（月～木）にするなど各スタッフの生活様式に合わせて柔軟に働ける環境づくりに取り組んでいます。

→8. 働きがいも経済成長も

地産地消・食育の推進、ヨックルガーデンへの車椅子用木道の設置

パーマカルチャーの考え方を参考に無農薬で栽培しているヨックルガーデンを主なフィールドとして、ヨックル滞在者やヨックルガーデンサークルのメンバーが野菜を栽培・収穫できる機会をつくるとともに、地域の農家等と連携した野菜直売所の設置など地産地消を促すことで、食育の場づくり、地産地消の推進に取り組んでいます。また、ヨックルガーデンには、車椅子の方も楽しんでいただけるよう、木道を設置しています。

→2. 飢餓をゼロに

ローカル版 SDGs 研修

森林を活用して環境面・社会面・経済面の課題の統合的な解決を目指す下川町の取り組みを学ぶ研修を提供しています。これまで、高校の探求型修学旅行や、大学、企業など、様々な方々にプログラムを提供してきました。

＜ これまでの研修提供先の一部 ＞

・東京海上日動 様　新入社員研修
　全国11地域で行われた新入社員研修のうち、下川での研修を担当。社会課題とその解決に向けた取り組みを、現場でのボランティア作業（人工林の枝打ち）を通じて体感し、地域創生への理解を深める。

・三井不動産グループ 様
　下川の循環型森林経営とゼロエミッションの木材加工、社会・環境・経済の統合的なまちづくりを目指したSDGsの取り組みを学ぶ。

・北海学園大学 様
　SDGs、持続可能な循環型森林経営、気候変動に対する下川町の具体的なアクションを学ぶ。

・姫路女学院高等学校 様
　下川町のSDGsのまちづくりについて、「森林・林業・エネルギー自給」および「女性の活躍」の観点から、理解を深める。

＜ 研修例（1泊2日） ＞

1 日目	13:00 開始 ・下川町到着。概要説明。 ・町有林の現場で 1950 年代から続く循環型森林経営について学ぶ。 ・木材加工工場でゼロエミッションの木材加工について学ぶ。 ・ふりかえり
2 日目	・一の橋バイオビレッジにて、木質バイオマスエネルギーを活用した住環境と産業づくりについて学ぶ。 ・ディスカッション・ふりかえり 12:00 終了

研修の目的に応じて、自治体として実施していることだけでなく、民間の取り組みも交えコーディネートしています。関心のある方はinfo@morinoseikatsu.orgまでお問い合わせください。

会計報告

活動計算書　2020年4月1日～2021年3月31日

（単位：円）

Ⅰ 経常収益	
会費	131,000
寄付金	50,000
事業収益	38,282,793
受託事業収益	7,879,994
助成金収益	1,934,000
その他収益	6,490,166
経常収益　計	54,767,953
Ⅱ 経常費用	
事業費	
人件費	12,979,488
その他経費	31,292,153
事業費　計	44,271,641
管理費	
人件費	5,434,316
その他経費	508,256
管理費　計	5,942,572
経常費用　計	50,214,213
当期経常増減額	4,553,740
税引前当期正味財産増減額	4,553,740
法人税、住民税及び事業税	679,620
当期正味財産増減額	3,874,120
前期繰越正味財産額	21,201,026
次期繰越正味財産額	25,075,146

資産貸借表　2021年3月31日 現在

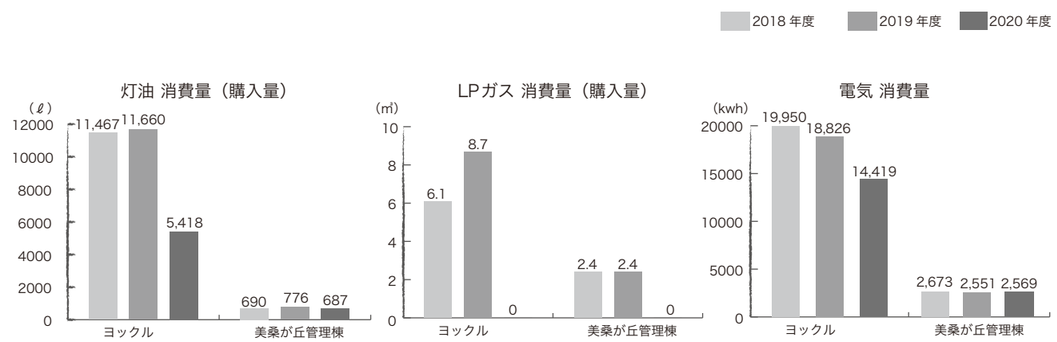
（単位：円）

Ⅰ 資産の部	
流動資産	
（現金・預金）	
現金・預金	18,749,631
現金・預金　計	18,749,631
（売上債権）	
売　掛　金	15,188,140
売上債権　計	15,188,140
（未収入金）	
未収入金	1,200,000
未収入金　計	1,200,000
（棚卸資産）	
棚卸　資産	1,660,656
棚卸資産　計	1,660,656
流動資産　合計	36,798,427
固定資産	
（有形固定資産）	
什器備品	213,408
一括償却資産	94,608
什器備品等減価償却累計額	-308,016
有形固定資産　計	0
（投資その他の資産）	
有価　証券	60,000
出　資　金	20,000
投資その他の資産　計	80,000
固定資産　合計	80,000
資産合計	36,878,427

Ⅱ 負債の部	
流動負債	
買　掛　金	69,713
未　払　金	10,488,130
預　り　金	82,138
未払法人税等	679,600
未払消費税	483,700
流動負債　計	11,803,281
負債　合計	11,803,281
Ⅲ 正味財産の部	
正味財産	
前期繰越正味財産額	21,201,026
当期正味財産増減額	3,874,120
正味財産　計	25,075,146
正味財産　合計	25,075,146
負債・正味財産　合計	36,878,427

エネルギー消費量

指定管理者として施設「地域間交流施設　森のなかヨックル」「美桑が丘管理棟」の管理運営を行っています。
事業活動に伴うエネルギー消費削減に努めるため、消費量についてモニタリング・公開しています。



団体概要

名称	特定非営利活動法人　森の生活
代表理事	麻生 翼
理事	児玉 光、普久原 涼太、黒井 理恵、加勢 雅善、成田菜穂子
監事	渡邊 大介
設立	2005年11月
会員	25名（正会員12名・賛助会員13名） 法人賛助会員2社 ※2021年9月時点
住所	〒098-1204　北海道上川郡下川町南町477番地
電話	01655-4-2606
FAX	01655-6-7007

法人賛助会員団体（五十音順）

・株式会社サンテック
・有限会社　北幸加工

森の生活年表

1997年　移住者を中心とした団体「さーくる森人類」発足。森づくりや森林・林業体験事業などを実施。

2002年　下川産業クラスター研究会の「自然療法プロジェクト」が森林療法をはじめとする自然療法の研究を開始。
「さーくる森人類」を母体としてNPO法人森の生活設立。代表に奈須憲一郎が就任。

2005年　森林療法を事業の柱の1つに据え、森を活かした体験プログラムやツアーの提供を開始。

2006年　「下川町幼児センター　こどものもり」の児童を対象にした森の中での保育活動「森のあそび」を開始。

2008年　下川町森林組合から移管を受け、トドマツ精油製造販売事業を開始。

2009年　指定管理者として「地域間交流施設　森のなかヨックル」の管理運営を開始。
幼児・小・中・高校一貫の森林環境教育事業を開始。

2012年　精油製造販売事業担当者が新たに立ち上げた「株式会社フプの森」にトドマツ精油製造販売事業を移管。

2013年　指定管理者として「美桑が丘」の管理運営を開始。事務所を美桑が丘管理棟に移転。
代表理事に麻生翼が就任。

2015年　有効活用されていなかった広葉樹材を活用するために小規模多品目の木材流通事業を開始。

2017年　起業家誘致プログラム「シモカワベアーズ」を産業活性化支援機構と連携しスタート。

理事・スタッフ紹介

代表理事
麻生 翼

理事
児玉 光

理事
普久原 涼太

理事
黒井 理恵

理事
加勢 雅善

理事・事務局長
『森のなかヨックル』管理運営
美桑が丘管理運営
成田 菜穂子

森林体験
森林環境教育
美桑が丘管理運営
長尾 綾

総務
児玉 こずえ

『森のなかヨックル』管理運営
森づくり技術指導
中山 誠一

『森のなかヨックル』管理運営
白川 百合子

『森のなかヨックル』管理運営
山田 直美

森の生活では活動をご支援してくださる方々を募集しています。
HPからお申し込みください。

【正会員】
年会費 5,000 円（個人のみ）
森の生活の総会議決権を持つ「活動の担い手」として、森の生活の運営や活動方針の検討に関わってくださる方々。

【ファンクラブ会員（賛助会員）】
年会費 3,000 円（個人）　10,000 円（法人）
下川や森の生活を応援してくださる「活動の応援団」の方々。

下記口座への寄付も受け付けております。お預かりしたご寄付は活動に大切に使わせていただきます。

【寄付・お振込先】
銀行振込
　北星信用金庫下川支店　普通口座：1018801
　特定非営利活動法人　森の生活　代表　麻生 翼
ゆうちょ銀行 振替口座
　02760-6-41851　特定非営利活動法人　森の生活
　（他行から振込）二七九店　　当座：0041851

森の生活
https://morinoseikatsu.org

特定非営利活動法人 森の生活　2020 年度年次報告書　2021 年 9 月発行

本報告書の内容に関するお問い合わせは、
右記までお願いいたします。

特定非営利活動法人　森の生活
〒098-1204　北海道上川郡下川町南町 477 番地
TEL：01655-4-2606　FAX：01655-6-7007
E-mail：info@morinoseikatsu.org